

藤 沢

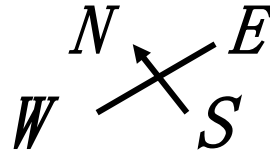
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2019年5月1日

第300号



主
な
記
事

- ・300号記念 各界からのメッセージ
- ・原発事故から8年 IISORA シンポ
- ・市議会議員候補者アンケート結果の公開
- ・福島っ子支援ありがとう ・エコストア開店

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@icom.home.ne.jp 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

300号記念号に寄せて

1994年に藤沢エコネットが立ち上がり25年。営々と毎月ニュースを発行してきた。

当時、大気汚染問題、緑地を守る運動、川をきれいに合成洗剤追放運動、資源回収をテーマのごみ問題など様々な環境問題に取り組むグループの緩やかな連絡と勉強の場として、藤沢環境運動市民連絡会議（略称 藤沢エコネット）が創立された。代表は当時生活協同組合運動をリードしていた故井之川平等氏。「人間が住むにふさわしい環境都市・藤沢の実現」と、人権と環境を結び付けた目標を掲げた。

それから25年、荏原ダイオキシン事件、ごみ有料化問題と裁判、武田薬品バイオハザード問題、大震災東電原発事故放射能問題と市内で大きな環境問題が次々起こり、そのつど学習会を開き、共同の場づくりに取り組んできた。また、藤沢市環境フェアに毎年協力し、市民の環境問題啓発・教育に取り組んできた。その結果、市民の関心が高まり、環境都市藤沢に一步近づいているのではないかなと思うが、どうだろうか。

今まで藤沢エコネットを支えてきた会員や読者、また市民、行政の皆さんに本当に感謝したい。皆さんの支えで毎月のニュースづくりや企画づくりが可能となり、共同の場での実質的な成果をあげて、25歳に成長することができた。

ここにささやかな特集号を出すとともに、1号から300号までの合冊子版を4図書館に用意し、藤沢の環境の歩みの一端が誰でも見えるようにしたい。そして次の25年に向けて、新しい担い手を求め、新しい形で市内環境情報を発信し、共同の場づくりを新感覚で進めていってほしいと願う。

地球温暖化問題、プラスチック問題等環境問題はますます重要となっている。視察、見学会、映画会等の他、SNSを用い、キャンペーンをはって実現していくなど、今まで以上に多種多様な活動を広げ、多くの市民とつながり、力を合わせて「人間が住むにふさわしい環境都市・藤沢の実現」に向かいたい。

藤沢エコネット事務局長 青柳節子



フジの花 日本大学にて
かぐわしい香りです

エコネットニュース300号発行に寄せて（敬称略）

藤沢市 環境部長 宮 沢 義 之

藤沢エコネットの皆様には、日頃から本市の環境行政の推進に、ご理解、ご協力いただき、深く感謝申し上げます。

この度、藤沢エコネットニュースが300号の発行を迎えること、誠におめでとうございます。これもひとえに皆様方のたゆまぬ活動の賜物であると、心から敬意を表します。

藤沢市は、美しい湘南海岸や緑豊かな自然環境に恵まれており、この環境を保全し次の世代に引継いで行くことが、市民、事業者、行政に課せられた責任であるといえます。

昨今、地球温暖化はもとより、海洋プラスチックなど私たちの身の回りには様々な問題がありますが、本市の環境基本計画の総合環境像である「地域から地球に広がる環境行動都市」を目指し、それぞれの立場から積極的に行動を起こして行くことがより一層必要とされています。

また、東京2020オリンピック競技大会におけるセーリング競技が江の島で開催されます。国内はもとより国外からの来訪者・滞在者に美しい藤沢の良さを感じてもらえるよう、環境面からの対応も必要です。これを契機とする環境美化や環境保全への取組を通じ、豊かな環境を実感できるよう、皆様のご参加とご協力をお願いいたします。

終わりに、藤沢エコネットのますますのご発展とご活躍を祈念いたしまして、300号発行にあたってのご挨拶とさせていただきます。

野生水族繁殖センター 廣 崎 芳 次

藤沢エコネットとE.S.モース

藤沢エコネットニュースが300号を迎えるとのこと心よりお喜び申し上げます。

私は江ノ島水族館を勇退してオホーツク海のアザラシの保護の仕事を今年で32年続けております。

魚を食べるアザラシを殺せというのであれば、アザラシが食べても困らないだけ魚を増やせばよいという当たり前のことが今ではようやく通用するようになりました。藤沢エコネットニュースには、毎号当たり前のことが書かれています。しかし聞く耳を持たない人たちに聞き入れてもらうにはどうしたらよいのでしょうか。

今から143年前にエドワード・シルベスター・モースが江の島に臨海実験所を設け、生物学のほか考古学、民俗学や博物学などを日本に日本に広めた人でもありました。

博物学は生涯教育とも呼ばれ、年齢や環境に関係なく誰もが学べる学問で、藤沢エコネットニュースなどはその教科書とか参考書に当たります。モースは函館に博物館を作ることにも力を貸しました。開館当日には函館市民の半数が訪れたそうです。これには博物館がどんなに知的施設として楽しいかについてモースが骨折ったかがわかります。彼は茶の湯までたしなんで多くの人々を引き付けたようです。

この6月1日に楽しい第34回モース祭が江の島で開催されます。一人でも多くの方が藤沢エコネットニュースの正論に聞く耳を持ってもらうために少しはお役にたつことと思います。青柳節子事務局長他関係者の皆様のますますのご活躍を願っております。



NPO 法人藤沢市民活動推進機構事務局長 **手塚明美**
 藤沢エコネットニュース 300 号発行おめでとうございます。

発行は「藤沢環境運動市民連絡会議」です。略称を「藤沢エコネット」と、分かり易いネーミングを付けた上で、「環境都市藤沢の実現」をめざして、市民サイドから環境に関する様々な学習会や情報交換、提言等を継続的に実践しています。その成果を月 1 回のペースで休むことなく発行している会報誌に掲載し、ホームページへも積極的に情報発信しています。

市民活動団体にとって情報の発信は命綱です。そもそも組織資源が潤沢ではない市民活動組織は、活動の充実への意欲は高いものの、その成果や効果を発信することへの意識が高まりにくく、共感を得ることに苦慮しています。市民活動の信頼を得るための要の活動とも言えます。そのような状況の中、1) 分かり易いネーミング 2) 定期的な情報発信 3) 複数の発信方法と三拍子揃う状況はなかなか見ることはできません。

1994 年の設立から 25 年間、本来のアドボカシー活動だけではなく、情報発信もペースを崩さず続けられてきたことに、市民活動団体の大先輩として敬意を表します。引き続きのご活躍を祈念し、記念号の寄稿とさせていただきます。



大谷房江

エコネット通信 300 号発行おめでとうございます。
 藤沢市内だけでなく多様な環境関連問題にさまざまな視点での取り組む姿勢は素晴らしいの一語につきます。企画・編集・印刷・発送と手間暇のかかる作業を長い間続けて来られた関係者の皆さまに敬意を表します。

目先の様々な環境問題も重要関心事ですが、未来に向けての喚起、過去の継承も大切なことと思います。現在、多くの市民団体の悩みは構成員の高齢化と、活動の継承者不足と思われます。各市民団体間のいくつかの交流の場もあるようですが多くは高齢の方が集っておいでのようで継承者を呼び込むのははなはだ難しそうに見受けられます。

藤沢市は住みやすい街としてここ数十年にわたり

人口の流入が多く、豊かな自然環境があったことすらご存じない市民が激増しています。開発され壊れた自然環境の再構築は至難の業です。身近な自然の魅力とその移り変わりに関心を持って貰うことが若い世代を巻き込む導入部になると思います。が如何でしょうか。



手塚弘子

その昔、採用試験の小論文に、教育の目標について書いたことがあります。《勉強が楽しい！と言う子に育てたい》と。知らないことを知った時、分からなかったことが分かった時、わあうれしい、ああよかったという子どもたちであってほしいと。今私は 80 に近い年齢になりましたが…その〈子ども〉になっています。それはエコネット通信を受け取った時です。毎号毎号いろいろな方がいろいろなことを知らせてくれます。いろいろなことを教えてくれます。いつも真摯な思いが伝わってきます。

私はいつもありがとうございますの思い出読んでいます。私は石けん推進の一筋の活動できました。でもきれいな水を守ることは命を守ることを理念で石けん使用を呼びかけていますといつの間にか興味関心は人々の暮らしの色々なことに向いて行きます。エコネット通信が更に貴重なものになっていきます。

石けん推進の活動はまだまだ続きます。“香害”という新たな公害が発生しています。合成洗剤と関係のある柔軟剤や消臭スプレーなどからの香りブームの被害です。消費者としてエコネットの学びを生かしていきたいと思います。



藤沢市地球温暖化対策地域協議会 黒田 亘

この度藤沢エコネットニュースが 300 号を迎えられたとの事、誠におめでとうございます。エコネットとの関係は一般社団法人ふじさわサンエナジー設立前の状況を解説したのと、平成 29 年 2 月の藤沢市地球温暖化対策地域協議会主催の江守正多氏による温暖化防止講演会「地球温暖化と私たちの未来」の要約版の記事を寄稿した時以来です。現在 430 部もの

発行部数があるとお聞きしました。多くの人達に読まれており、市民・事業者・行政等その影響する所は大きいものがあると思います。相当幅広い意見を展開しており我々藤沢市地球温暖化対策地域協議会とは目指す方向が異なる点もありますが地球温暖化対策という面での基本的な方向性は同じだと思っております。今後ともより良い社会を築くため、質の高い記事を掲載されることを祈念いたします。



澤野井道子

「藤沢の空気を考える会」は藤沢市内の空気の汚れに関心のある個人や団体が 1994 年 11 月に糾合、結成した会です。それ以来「大気汚染かながわ連絡会」の一斉調査に合わせて年 2 回、6 月、12 月に測定を続けています。結成当時は車も急増、ジーゼル車も多く市民の関心も高く市内で 400 地点の測定をした、測定者への測定管の配布、収集、分析をして結果をまとめる作業は大変だったことを思い出します。

天谷先生が測定の普及を目的に考案された簡易ろ紙法により管にろ紙を入れ、試薬をしみこませる測定管作り、集めた管に市環境保全課提供の分析液を入れ、発色させその色をユニメーターで測定する、この作業には「大気汚染かながわ連絡会」の事務局の近藤博先生が参加、ご指導下さいました。夏冬の測定結果を発表、市との話し合い、西湘 5 市・1 町合同の発表会などを行い、エコネットニュースを通じて皆様にお伝えしたつもりですが、如何でしたでしょうか。

武田問題対策連絡会 福岡秀治

エコネット有力会員の皆様のご努力で藤沢・鎌倉の市民団体に所属する人達が中心になって武田問題対策連会が結成されたのが 2008 年 7 月のことでした。『(仮称) 武田薬品工業株式会社新研究所建設事業に係る環境影響予測評価書案についての公聴会』における公述人の公述後の神奈川県当局や特に武田薬品の幹部職員の意見陳述・対応に危機感を感じた多数の公述人や傍聴者がその後の武田側説明会を経て連絡会の立ち上げを行いました。ここから武田薬品に対して長い長い活動・行動が始まりました。

私たちが本日まで武田薬品に対して抗議行動等の諸活動を続けられた主要因の一つに藤沢エコネットとの結びつきがあったことと感謝しています。エコネットニュースには毎年複数回の武田関連記事を掲載いただいています。

近年では、藤沢市行政の主催する藤沢環境フェアにおいて藤沢エコネットのブースに武田問題の展示スペースをご配慮いただき発表の場とさせていただいており、武田薬品の現状を一般市民の方へ直接訴える絶好の場となっています。また、藤沢エコネットの幅広い活動の中の一つである大気汚染調査、いわゆる NO2 分析では、武田薬品湘南研究所（現、湘南アイパーク）周囲 5 箇所を含む鎌倉市地域のサンプリング・分析を共同で行っており、藤沢エコネットの活動ノウハウを勉強しています。

藤沢エコネットは大変広く、例えばエネルギーの地産地消をいち早く取り上げるなど他地域の活動に大きな影響力を発揮しています。武田問題対策連絡会会員も地球温暖化・CO2 削減啓発や原発再稼働阻止等の学習会や活動にも参加して少しでもエコネットの活動の拡大に貢献できるよう協力しています。

今後とも「市民ファースト」の目線で市民活動をリードしてってください。

貴会の一層のご発展を祈念いたします



新日本婦人の会藤沢支部くらし部 小橋好枝

「エコネット」って何？ 初めてエコネットニュースを勧められた 8 年前の第一声です。環境運動の市民団体と伺い、私たち新婦人くらし部とリンクしている活動と分かりました。以後、NO2 の測定管作りや計測は常にご一緒。NO2 の測定を通しては、喘息罹患率の関係性にも気づかされたりして現在も共に活動。ここでは何事も先ず準備が大切なことを学びました。ゴミ問題、放射線測定、武田問題など数々の問題に取り組み、しかも一時的ではなく継続的にとことん突き詰める姿勢には脱帽です。これからも問題提起に心を寄せ、学習しながら協力できることは一緒に取り組んでいきたいと思います。先ずは 300 号おめでとうございます。

加藤なを子

社会のすべての課題と環境は結びついています。藤沢エコネットニュースの視点は、いつもその時々課題に対応し、学習や現地調査を重ね、鋭く論じて、さらに行動している点が素晴らしいと感じています。

行政や企業など直接懇談し、要望書も提出するなど市民にとって励まされ、信頼される存在です。その多様な活動をお知らせするエコネットニュースが、休むことなく継続して発行されていることは貴重なことです。これからも、市民に問いかけ、励ます存在であり続けることを望んでいます。

絵手紙 渡辺王子



70 年代の藤沢の公害反対運動ーエコネット運動前夜の頃

山内幹郎

私と藤沢の環境運動との出会いは、大学で保健学・疫学を専攻した 70 年代の藤沢橋の道路公害・鉛汚染に関わった頃にさかのぼります。また引地川のダイオキシン汚染が問題になった頃、ダイオキシンの健康被害についての文献調査を依頼されて報告したこともあります。エコネットの創始者の故井之川平等さんや宮地あつ子さんも大変熱心でした。NOx のポリカブセルによる大気汚染測定運動をずっと続けておられる片瀬の近藤先生とも川崎の公害なくす会のメンバーで、法政二高でみんなが公害副読本づくりなどで一緒でした。藤沢はその頃から食品公害や石けん運動、

流域下水道問題などの消費者運動・大気水質汚染問題など幅広い運動で燃えていた 70 年代であり、その後の広い視野でのエコネット運動誕生の前夜でもありました。



国枝 健

300 号と聞きビックリ。25 年間毎月の発行、おどろきです。「継続は力なり」こんな身近にあったのは気が付きませんでした。青柳さん他スタッフの方々、本当にお疲れ様でした。

私がエコネットに関わりだしたのは、10 年前武田薬品が藤沢市の住宅街に、旧アリナミン製造の跡地に超大型の実験室を持つ研究所をつくることが判った時です。自社製品の優位性を明らかにするため、2012 年度のタケダの、医療機関や医師への寄付金は 400 億円にものぼり、業界トップでした。お金で臨床データを買う製薬会社との癒着はキッパリと縁を切らせる必要がある。また最近では、昨年福島第 1 原発事故から 8 年目となり、福島県の農家が飼う家畜に全頭殺処分の方針の決定に対して。人間と家畜の起こるべくしてなった”愛“の問題を取り上げた筆者の原稿を載せてくれました。私も 50 年来の友人と意見が合わず、ジャーナリズムの本質を問うもので、絶交しても真実を取り上げてもらいました。

エコネット、ありがとう！！

パパラギ 武本匡弘

30 数年間、海を職場とし、海と向き合ってきましたが、海洋環境の劇的な変容は留まることがありません。

海洋プラスチック・漂流ゴミ問題等が、やっと注目され始めましたが、大量消費、経済優先という現状のなかでは、解決の糸口も、希望を持つにも、ほど遠いような気がしてなりません。実際、汚れた海を前にして「自然と共生する幸福感」と言うものを体感することは困難になる一方です。

それでも、「思索し、声を上げ続ける人々」がいる限り、その人々との協同は大きな希望です。

藤沢エコネットの永きにわたる輝かしい活動、諸先輩方のお姿にいつも勇気を頂いております

300回という継続発行の軌跡は、歴史に名を残す活動の証であり、私達はそれを継承し続ける責任があるように思います。

今回は400号記念を楽しみにしております。更なるご指導をお願い致します。



島田啓子

エコネットニュース 300 号発行に関して改めて発足当時を思い返してみると、生協運動の大先輩井之川平等さんに声をかけていただきながら、夫の死去の時期と重なっていたので、積極的にかかわることなく、今日まで来てしまいました。

あれから 25 年、市内、国内、世界的に発生した様々な環境問題を取り上げて、一度も休刊することなく今回の 300 号という輝かしい記録の達成は素晴らしい一言です。しかも決して多いとは言えない事務局の方々が、原稿作成、印刷、発送などすべてを担当されているのを身近に拝見しているので、余計にその偉業に感嘆せざるを得ません。 人間的つながりを生かしたバラエティーに富む執筆者もエコネットニュースのすばらしさの一つだと思います。

小林 麻須男

私は、今から 20 年前頃から藤沢エコネット運動に参加しましたが、藤沢の環境を守る上で、エコネットがどんなに大きな役割を果たしたか、ニュース 300 号を迎えるに当たって、その果たした足跡の大きさをつくづく感ずる所です。

私がエコネットに入って最初に取り組んだ運動は、荏原製作所のダイオキシン問題でした。みんなで現地に入ってダイオキシンを含んだ排水配管が引地川に流出しているのを突き止め、荏原にガス化溶融炉の運転をストップさせることができました。この運動には、エコネットばかりでなく市内の沢山の環境団体も運動に加わり、一緒に運動を進めることが出来たのは、それからの藤沢の環境運動を進める上で大きな役割を果たしたものとおもいます。

次にエコネットが取り組んだ大きな運動は、平成 8 年から始まった武田薬品の研究所建設問題でした。バ

イオ排水を大清水浄化センターに流すな、実験動物の焼却炉反対、p3 実験はするな、市街地でのバイオ研究所建設反対などが大きなテーマでしたが、その運動の大きさ、様々な分野の人々が運動に参加したのは圧巻とも言えるべき広がり運動だったと思います。近隣の町内会も運動に合流し、三回に渡って武田に住民説明会を開かせたり、一緒に研究所の廻りをデモ行進する程に運動はひろがりました。又、減多に無いことですが動物愛護団体の若い女性達も運動に加わり、江の島から弁天橋を渡り、隊列を組んで海岸通りをパレードしたのは近所のお土産屋さんもこんなに若い女性達がパレードするのかとビックリした様子でした。

更に建設が始まる当初から藤沢、鎌倉の住民も加わり武田問題対策会議が発足し運動を継続的に進めて来たのも大きかったと思います。武田の運動は、動物実験の焼却炉は使わない、p3 実験はしない、定期的に武田近隣の町内会の住民説明会を行う等の妥協案で運動は集結しましたが、武田の問題はまだ多くの問題が残っており、今後とも運動は続けなければならないと思っています。

最後にエコネットニュース 300 号は藤沢の環境運動の歴史と宝です。今後のますますの発展を期待しております。

杉山百合子

エコネットに参加したのは、ごみ問題の頃だったと思います。荏原製作所からのダイオキシン漏れが問題になり。そもそもの廃棄物処理のシステムを知らなければと、市内の実情を調べて見開きの図解にしたのを覚えています。画家の田島征三さんや、写真家の中村梧郎さんをお呼びしてお話を伺ったり、100 号記念号では大増ページに学習文化センタの一室だったか、部屋中に広げたページをみんなでぐるぐる回りながら製本しましたね。もう 300 号！それを支えたのは毎月会議を開き、ニュースの原稿を集め、印刷、発送などの手間をかける事務局の皆さん。今は活動から離れてたまに顔を出すくらいになって申し訳ないです。 毎年の藤沢市環境展も、エコネット展がその前身だったはず。新しく活動を担ってくれる人の登場を祈りつつ、貴重な活動に感謝を送ります。



内藤 繁

市民の民意が反映する社会を

市民の民意が反映する社会はどうしたら実現する、という事を模索していた中で、地元の民意はという事にも関心を持ち、行政に物申せる運動に関心を持つ中で、ダイオキシン問題などへの市民の運動の集会に何度か行っていたら、青柳さん宮地さんという人を覚えていったのだと思います。そのうち知り合いになりました。

4万人反対署名のごみ有料化が阻止出来なかったのは残念です。当時市議に立候補までしましたが、いまさらですが、その時私に投票して頂いた方はまことにありがとうございました。

今は、かながわ市民連絡会などで、野党共闘によって民意が反映する道を探っております。参院選は立憲共産社民の脱原発の各党が全国レベルで調整し合って勝つように。

この時代に巨額な税金を投入して新たな町を作り既存の駅の住人は通勤時間まで増える村岡新駅はぜひ阻止したいものです。



青木正美

エコネットとの出会いは、部活の外への拡がり

それは電話だったと記憶する。エコクラブという環境に関することを学び行動する部を湘南高校通信制で活動していた頃、その活動内容をエコネットの月例会で発表してくれないか、と記憶に間違いなければ青柳さんから学校への電話に出たのだ。光が穏やかに差し込む今は亡き、境川沿いの建物での例会で発表し、多くの人が多くの団体が参加しているのだな、と思った。

その後、時折だが例会に参加し、多くの方からいろんな話を聞き、とても勉強になった。年に一回のエコネット展も手伝ったりした。エコネット展はふじさわ環境フェアに衣替えし、出展と市民参加の実行委員会にも加わった。若き日の様々な思い出、あのようになれば良かった、なんて事もたくさんあるが、とりあえず今でもこうしてエコネットニュースに思いを載せ

させてもらえて、今年の環境フェアにも関われそうだと。解決目指して走ろう！



宮地俊作

荏原ダイオキシン問題：市民の取り組みが国を動かした！！

2000 年 3 月に引地川でダイオキシンの流失が判明。その汚染源が荏原藤沢工場であること突き止めたのは、藤沢市環境保全課の方々による綿密な調査による。市民集会が開かれ、荏原ダイオキシン市民対策会議が生まれ、藤沢エコネットはその事務局を担うことになった。引地川のコイや海のタチウオなどのダイオキシン値は全国で最も高く、廣崎先生（元江の島水族館長）や故川崎先生（東北大名誉教授）からは河口付近の底質の問題、江の島近海の底生魚への影響などの問題が指摘された。

神奈川県は藤沢市と連携して積極的に調査し、データを公表。神奈川新聞のダイオキシン関連記事のエコネット HP への引用が認められ、全国に貴重な情報発信ができた。経済魚のサンプリングは、地元漁協に依頼して行われたが、指標生物については、調査ポイント探しに市民も協力。特に、対象種のムラサキガイ（通称ムールガイ）では、サーファの塩坂源一郎氏や佐賀和樹氏などの意見を聞いて行われた。また、市民対策会議は県にダイオキシン測定装置導入や底質基準の決定を要望。さらに、阿部知子議員による国会質問もあり、ダイオキシン底質基準値が決定された。環境省の担当者から「みなさんの取り組みに後押しされて、漸く底質基準を決めることができました。」との発言を忘れることができない。市民がひとつになり、行動することで、行政や議会が動き、国を動かすことができた貴重な経験であった。



渡辺 智恵子

私がエコネットのHPを担当して、4年になります。杉山さん、宮地さんに続いて私は3代目です。トップページには、初代杉山さんが作られた画像を使わせていただきました。

エコネットニュースでは藤沢の環境問題や地球温暖化など様々な問題を取り上げ、毎月4ページの構成で作成されるスタッフの方には頭が下がる思いです。これからもたくさんの方にニュースをお読みいただきたいと思います。

HPでは156号（2007年5月）から閲覧できます。ニュースは毎月更新していますので、こちらでも是非一度ご覧いただければ幸いです。

エコネットニュース編集担当 日比 遥

気が付けば25年300号、環境問題は無くなるばかりか、次々と新たに発生しています。「過去を知り未来を拓く」の気持ちでニュース発行に関わってきました。どこに問題があるのかを読者の皆様にお伝えし、知っていただき明日が良くなるようにとの思いです。

今一番の課題は地球温暖化をどう食い止めるかと、喫緊する問題や長中期の問題を市民が全員で考えていくことができるように、ささやかな活動ですがお役に立てれば幸いです。この活動を若い人たちに引き継ぎたいのも課題です。

元号が「令和」となった5月1日はメーデー、メディアの報道の在り方は凄い、報道も環境問題の内、目を向けていかねば...と思います。



エコネットニュース 巻頭言一覧 (200号以降)

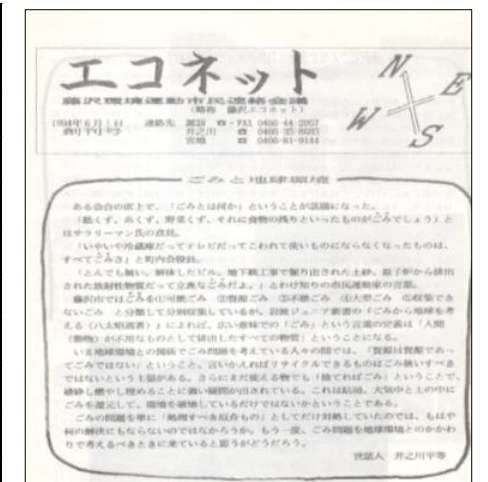
号番号	発行年月	著者	巻頭言内容
200	2011.1	井之川平等	200号記念に寄せて
201	2	小林麻須男	実験動物炉外部委託 住民要求みのる
202	3	日比 遥	TPP 反対意見書 議会で採択
203	4	井之川平等	東日本大震災を考える
204	5	諏訪謙司	ゴミ裁判最高裁上告棄却決定
205	6	宮地俊作	原発安全性の総点検を
206	7	内藤 繁	藤沢市議会 小さいが光は見えた
207	8	青柳節子	井之川さん逝く
208	9	古屋賢吾	早急に脱原発を パレードに行 こう
209	10	宮地俊作	湘南パレード 未来へ歩こう9.11
210	11	青木正美	16回 環境フェア
211	12	諏訪謙司	TPP 消費者の立場で考えよう
212	2012.1	野本哲夫	TPP 日本の医療に何をもたらすか
213	2	小林麻須男	藤沢市長選の争点
214	3	青柳節子	3.11原発事故から1年
215	4	川崎 健	地球温暖化 これからの課題

特集号の表紙



創刊準備号

号番号	発行年月	著者	巻頭言内容
216	5	日比 遥	ベトナムで脱原発をアピール
217	6	青木正美	愛する安達太良山の戸場口から
218	7	須藤百合子	福島の子とともに・湘南の会発足
219	8	N. K	7.16代々木公園集会「原発さよなら」
220	9	柿本まどか	勇気と希望の原水禁世界大会
221	10	青柳節子	藤沢市政市議会の最近の変化
222	11	日比 遥	辻堂C-Xのまちづくり
223	12	青木正美	今年も温暖化防止月間に環境フェア
224	2013. 1	宮地俊作	原発に頼らないエネルギーのパラダイムは
225	2	諏訪謙司	オスプレイ厚木配備 環境法の適用は
226	3	手塚弘子	命の水を守る石けんを使いましょう
227	4	N・K	鈴木市政2年目の環境政策
228	5	須藤百合子	西尾正道医師の提言
229	6	川崎 健	海の汚染
230	7	野田美雪	富士山の水
231	8	諏訪謙司	参院選後国民はどう生活を守るか
232	9	荒井かつ子	福島っ子リフレッシュin湘南を終えて
233	10	川崎 健	国土を取囲む巨大防潮堤と災害資本主義
234	11	青木正美	環境フェア2013 明治市民センターで
235	12	宮地俊作	子や孫に残すべきものは何か
236	2014. 1	青柳節子	えこねっと20歳
237	2	川崎 健	原発再稼働と海洋汚染
238	3	小林麻須男	3年前 あの日起きたこと
239	4	青木正美	気候変動の対応策
240	5	青柳節子	240号記念特集号
241	6	日比 遥	藤沢市市政運営の総合指針2016
242	7	宮地俊作	ご当地エネシフトを
243	8	島田啓子	被爆国日本の果たす役割
244	9	林 陽生	地球温暖化と異常気象
245	10	古屋賢吾	祝1周年原発ゼロだよ
246	11	青木正美	環境フェア開催
247	12	宮地俊作	私たちはこのまま破局の道を歩み続けるのか
248	2015. 1	川崎 健	ipcc地球温暖化この先は
249	2	糸長浩司	市民発電
250	3	諏訪謙司	再びごみ有料化を市議選争点に
251	4	上野武雄	現在の教育環境は
252	5	斉藤隆夫	今こそ日本国憲法を
253	6	青柳節子	環境月間によせて 環境都市宣言へ
254	7	保坂治男	国破れて山河あり
255	8	藤沢陽子	ニューヨークでのNPT行動に参加して
256	9	林 陽生	猛暑の記録
257	10	青木正美	20年目の環境フェア
258	11	川崎 健	津波と防災学習会
259	12	宮地俊作	低炭素都市をめざそう



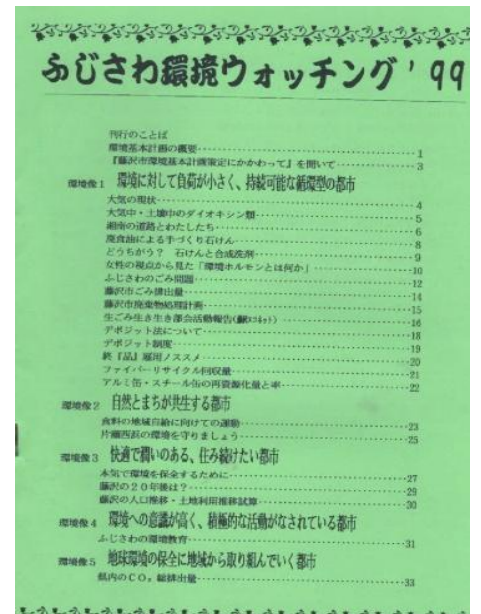
創刊号

原発撤退の国への意見書採択



200号記念誌

号番号	発行年月	著者	巻頭言内容
260	2016. 1	青柳節子	2016年への期待
261	2	国枝 健	藤沢市長選の争点
262	3	杉山百合子	宮城福島に通ってカルタ
263	4	宮地俊作	電力小売り自由化
264	5	荒井	ふくしまっ子リフレッシュ
265	6	川崎 健	パリ協定はどのように採択か
266	7	手塚弘子	石けんまつり
267	8	福永洋子	藤沢市の平和学習
268	9	諏訪謙司	ヒトラー再現は許すまじ
269	10	宮地俊作	川崎健先生を悼む
270	11	國枝 健	環境悪化の歴史
271	12	宮地俊作	エネの地産地消をすすめよう
272	2017. 1	小林麻須男	南スーダン武器輸出国際決議
273	2	日比 遥	楽しみな大船フラワーセンター
274	3	青柳節子	福島を忘れまい
275	4	宮地俊作	市民発電所一号完成
276	5	小林麻須男	諏訪謙司さんを悼む
277	6	木下 薫	辻堂南部の津波対策で大論争を
278	7	埜下正美	72年後の夏を迎えて
279	8	真島年枝	原水禁大会に参加します
280	9	宮地俊作	豪雨の備えを見直そう
281	10	小林深雪	食の安全雑感
282	11	荒井かつ子	福島 浜通りを見学
283	12	青木正美	環境フェアに参加を
284	2018. 1	青柳節子	初夢 想像してごらん
285	2	内藤 繁	即時原発ゼロの必然性
286	3	糸長浩司	飯館での除染限界
287	4	青柳節子	原発のない日本はいつやってくる
288	5	古屋昌寿	食は人を良くする
289	6	片瀬沢野井	横浜藤沢線の現況
290	7	渡辺博明	原発事故の原因と責任
291	8	宮地俊作	北東アジアに平和と繁栄を
292	9	小柳倫子	原水禁大会に参加
293	10	小林麻須男	縄文時代に学ぶ自然との共生
294	11	青木正美	年に一回 引き締めのきっかけに
295	12	宮地俊作	地球温暖化を食い止めよう
296	2019. 1	日比 遥	2019今年の課題
297	2	田島絵里子	改正水道法に思うこと
298	3	内藤 繁	原発ゼロ実現に選挙
299	4	斎藤隆夫	市議会意見書採択 改憲ノ一地位協定見直し
300	5	青柳節子	300号記念号に寄せて



原発事故から8年 IISORA シンポ

3月23日、福島市で開催のIISORA シンポジウム『原発事故から8年、「放射能公害」と飯舘村再生への闘い』に参加。休憩入れて5時間半の濃い内容でした。で自分に印象の強かった4つのことに絞って報告します。前半は復興予算のことと、村外コミュニティの事。

■村民が決定に関わりにくい復興予算とふるさと納税

- ・国から降りてくる復興予算は単年度会計。すぐ使うものにしか使えない。

- ・予算規模はそれまでの村財政 40 億円の約 4 ～ 5 倍。采配する職員の数是不変から裁くのが高負担。

- ・すべての項目に「その他村長の認めるもの」という一項が入っている。これを、「議会の認めるもの」に変えるべきではないか？

- ・ふるさと納税の使い道の一番に「復興の象徴となる「触れ合う彫刻」の建立・設置」がある。

すでに設置されたが、これからさらに3000万かけてブロンズのベンチを設置する。それが今必要なものか？議会で反対は少数派だった。

- ・多額の財政を投入した施設の数々は利用者少なくて来年度から赤字を生むことになる。

■自治コミュニティを楽しむ

- ・避難村民自治組織『いいたて未来会議』は当初は村から認められたが「帰村しないことが前提」と判断されて、避難解除後は認めないと言われて解散。「既帰村しないことが前提」などではないのに。

- ・何かテーマを決めて呼びかけても反応は薄い。ただゆるやかにあつまるといふ場が求められている。

(続く 杉山百合子)



市議会議員候補者アンケート結果の公開

これまでも市議選の時には環境問題について立候補予定者アンケートを実施してきた。この結果については、今後、市民が藤沢市の環境行政を議論する際に参考になると考えられる。特に、温暖化対策の加速、2022 年以降の中長期的な対策、原発再稼働、核兵器禁止条約については、ほぼ全員の方々が〇印をつけていることが注目される。

環境都市藤沢の実現に向け、とりわけ、2022 年度までにCO₂の40%削減目標について、27.7%削減となり、残り 13%削減は異常気象・気候変動が迫る中、緊急防災対策/温暖化対策を加速させることが急務となっている。

対策が実を結ぶならば、東京オリンピック会場である江の島を訪れる海外の方々に低炭素都市藤沢をアピールする良い機会となるであろう。

(詳しくは HP：検索→藤沢エコネット) (宮地俊作)

福島っ子リフレッシュ ご支援ありがとうございます

桜がちらほらと咲き始めた3月24日、福島を発って藤沢の慶応大学に到着、元気な子どもたちと親御さんたち33人がやってきました。

江ノ島や鎌倉へ出かけました。翌日は湘南台子ども館で遊び



午後はビュンビュンゴマ作り、絵本を読んでもらいくつろいだ後、湘南台公園で大縄跳び、綱引き、ボール遊びに思いっきり駆け回って遊びました。

今回第 14 回は 11 家族で子どもは 21 人、男児が多く、また姉妹の中学生やお姉さんも参加しました。「お友だちになれた」「江の島は楽しかった」「普段なかなか子どもとお話ができないが、親子の絆ができて感謝します」と感想を下さいました。

藤沢エコネットの皆さまにはご支援いただき、心から感謝申し上げます。お陰様で今回も無事リフレッシュを成功させることができました。福島の様子を知るにつけ、まだまだ続ける必要を感じます。夏休みも行う予定です。

(福島の子どもたちとともに・湘南の会 荒井かつ子)

ギョッ！ 越冬回遊魚？

伊豆周辺海域で、普段この季節に目にすることがない魚達が多く観察されてます（2019.4 撮影）



夏から秋にかけて、黒潮に乗って南方から来る幼魚たち。海水温が下がる2月から3月にかけて死滅するため「死滅回遊魚」とも呼ばれています。

（伊豆では130数種確認されています。）つまり、こちらでは「越冬出来ない」魚たちが越冬してしまっているのです。

もっと驚くことに、冬には14度前後まで下がる水温が、今冬、17度を一度も下回ることがなかったということです！海藻類も育たなくなり、まるでトロピカルフィッシュが泳ぐ南の海風景です。

そして、相変わらずの漂流ゴミ！北風に乗って関東から流れてくる“季節回遊ゴミ”（？）（下の写真）こちらは決して死滅しません！この100年間なかったという現象が海で起こっています。

「春の海越冬来魚にギョッとする」…笑えません。

（日本サンゴ礁学会会員 武本 匡弘）



放射能測定値（市民計測）

（HORIBA Radi）単位（ $\mu\text{Sv/h}$ ）地上 50cm
4/5 秋葉台小学校 校門前 0.033

ECONET INFORMATION

▲平和行進 東京から広島へ

核兵器廃絶と平和を願うならだれでも参加できます。

5月16日（木）8:45 市役所前に集合→烏森公園→
神台公園→茅ヶ崎まで一緒に歩きましょう

▲学習会 海を救え

プラスチックを使わない生活用品のお店を開業して
お話し 山本洋子さん（自然観察指導員）

5月19日（日）14:00-16:00 総会 15:10-

藤沢市民会館第3会議室

湘南のなぎさを守る藤沢市民の会



▲かながわピースフェア

5月19日（日）10:00-15:00

大和駅東側プロムナード

爆音なくせ 静な空を私たちの街に実行委員会
046-200-5388

▲「モルゲン、明日」映画上映

原発ゼロを決めたドイツ市民のエネルギー革命

5月29（水）14時・18時半 の2回上映

会場 エコストア パパラギ ￥1000円（学生700円）

監督の坂田雅子さんも来場し、交流。意見交換等の時間
もあります。申込み 0466-50-0117（パパラギ）

▲藤沢エコネットから

◆訂正しお詫びします 前号記事2ページアンケート結果
で、谷津英美さんの欄⑥村岡新駅は②に〇でした。お詫
び致します。またアンケートは締め切り後届いた松永由
美絵さん三堀春樹さんはHPには掲載しました。

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行（9900）店番（029）

当座預金 0046501 ㊿ ㊿エコネット

◆事務局会議 5月10日（土）10:00～

プラザむつあい

《編集後記》300号記念号。今回は選挙の候補者アン
ケートと重なり、十分な用意ができず薄い12ページ。
しかし、この25年の思い、歴史は伝わるのではない
かと思う。平成から令和に5月1日から改元した。日
本国憲法下で初めて即位した、戦争の惨禍を知る象徴
天皇は退位した。令和の時代も戦争の惨禍を忘れず、
平和な時代をつくりあげたい。（A）